

ベストクラス選定理由書

作成者：坂田 駿斗、石井 基晴、川内 充延、進藤 佑香

科目名称 教科・領域の内容・指導法研究Ⅳ（理科）		（担当教員名： 山本 智一 ）
課 程： 大学院（専門職）	開講時期： 後期	
授業形態： 講義・演習	授業規模： 30人以下	
インタビュー対象教員名 山本 智一 （実施日時： 7月27日（月）10:40～11:40； 実施場所： Zoomによる開催）		
インタビュー対象受講者名 受講者修了のため、該当者なし （実施日時：； 実施場所：）		
<p>選定理由</p> <p>7月に行われたベストクラス検討会にて、授業評価アンケートの評価値の高さ、受講者の自由記述の内容を踏まえて、本科目をベストクラス候補として挙げた。本科目は、専門職学位課程 教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コースのみに開講されており、少人数で授業を行っている。</p> <p>以下のとおり、本科目の内容・工夫等を自由記述、インタビューに基づいて詳述する。</p> <p>【受講者の自由記述より】※一部を抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の実践や注意点を児童に教える視点で学ばせていただき、とても勉強になりました。 ・理科教育に対する熱意を毎回感じられ、授業に行くのが毎週楽しみでした。 ・小学校の内容と中学校との接続が示され、何をどう教えるといいのか考えられる授業であった。 <p>【担当教員へのインタビューより】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が楽しんで授業を行っている。学生の熱意が高い。名前を覚えるようにしている。 ・授業中に、19年間の小学校教員の勤務経験や新聞記事、科学博物館に行ったことなどから、理科が面白くなるネタを入れるようにして、学生に面白さを伝える。その際は、「自分がこれは面白い！」という意識をもち、本音と具体で話す。 ・学生に対し、単元・領域別に教材研究マップの作成を課している。マップを見ながら、教材の学習内容・構造などを学生に解説してもらう。その後、指導の具体について考察していく。マップについて、授業ごとのつながりや全体像が見える化し、形にすることが大事。 ・理科室を使わないことを前提とした授業を展開する。火を使わない、理科室でなくても安全に管理できる器具や薬品のみを用いる（ミョウバン、顕微鏡、気体検知管など）といった工夫の上で各グループに分かれて実験も行う。手を動かし、実際に触って体験することを重視し、取り入れている。 ・全てのマップに何らかの形でフィードバックを返すようにしている。これにより、知見が増え、やりがいを感じるなど学生の受け取り方が変わり、また、授業改善にも役立っている。 <p>【総括】</p> <p>本科目は、教員と学生の双方から熱意を大いに感じられ、それは学生の教材研究マップや教員の授業展開の工夫、評価、話し方などに表れている。また、教員は普段から理科にまつわる事柄に目を向け、理科の面白さを発信している。教員と学生の熱意が相互に影響し合うことで授業の質を深め、現場で活かすことができる内容であるため、ベストクラス候補としてふさわしいと結論した。</p>		